

續文選

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

17
4

徳文須世録記

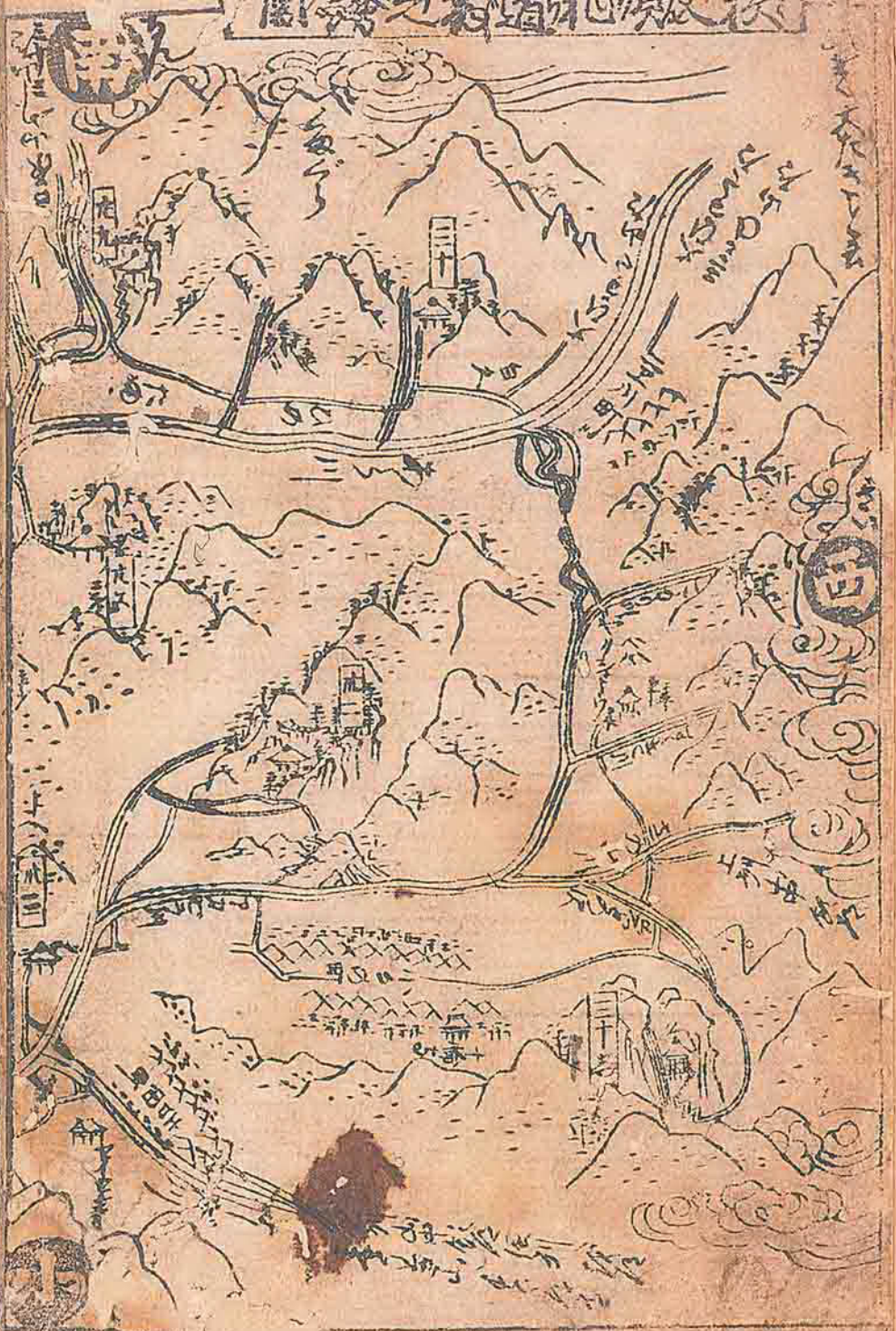
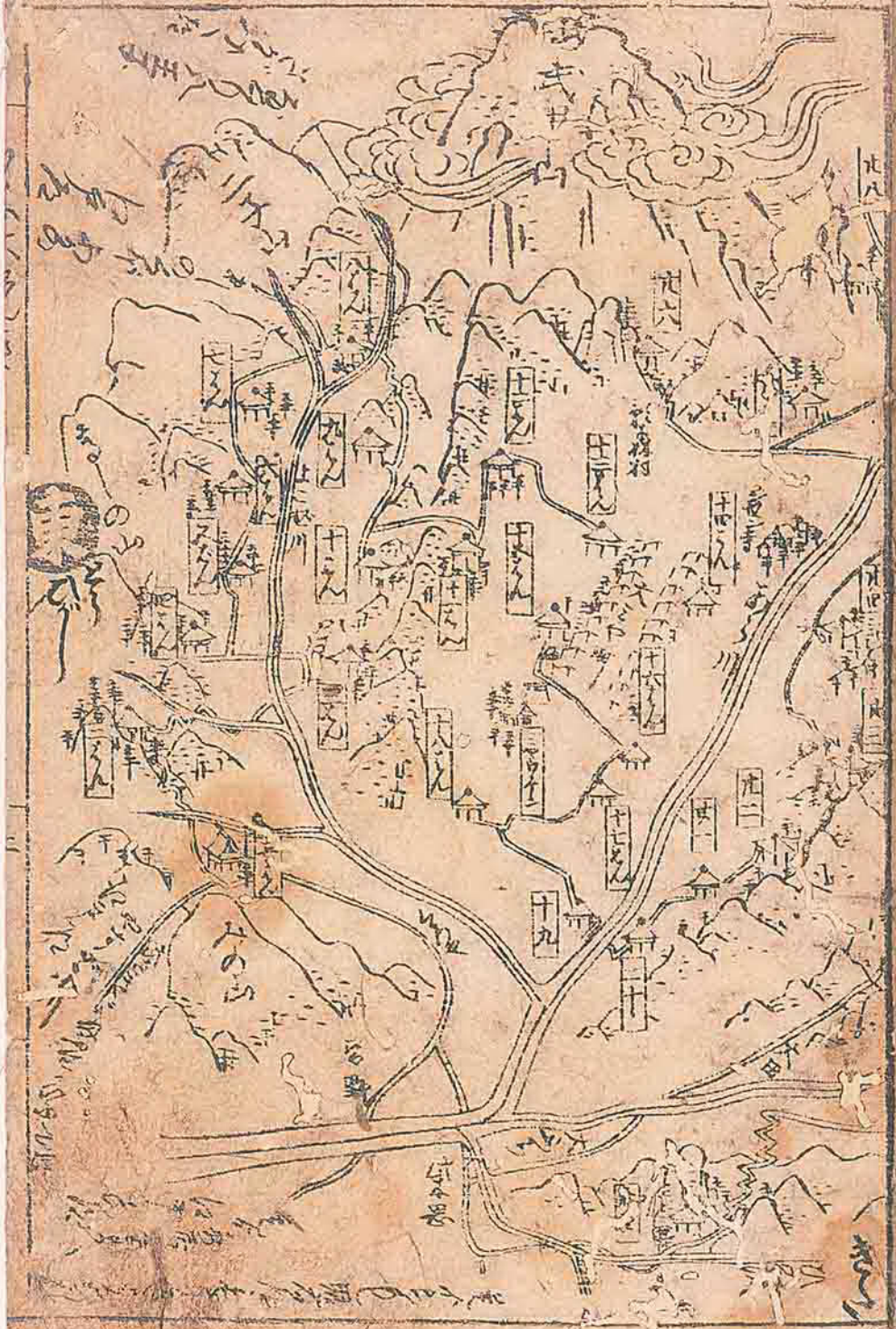
徳文須世録記

徳文須世録記



1131

漢代西域道里圖



三十四ヶ所みちのり

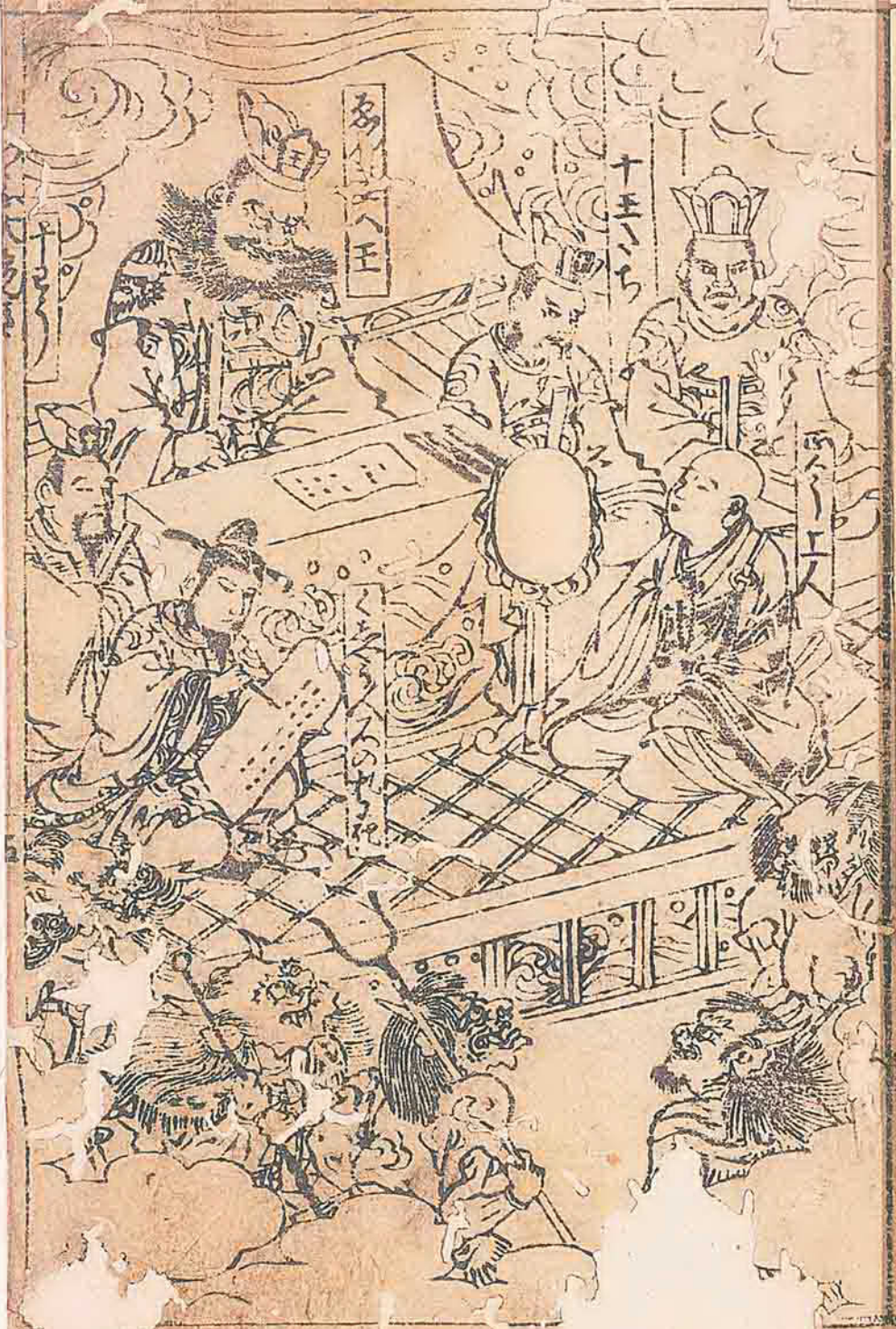
一 一丁 四丁 八丁 十二丁 十六丁 二十丁 二十四丁 二十八丁 三十二丁 三十六丁 四十丁 四十四丁 四十八丁 五十二丁 五十六丁 六十丁 六十四丁 六十八丁 七十二丁 七十六丁 八十丁 八十四丁 八十八丁 九十二丁 九十六丁 一百丁

十九ヶ所の町 二十ヶ所の町 二十一ヶ所の町 二十二ヶ所の町 二十三ヶ所の町 二十四ヶ所の町 二十五ヶ所の町 二十六ヶ所の町 二十七ヶ所の町 二十八ヶ所の町 二十九ヶ所の町 三十ヶ所の町 三十一ヶ所の町 三十二ヶ所の町 三十三ヶ所の町 三十四ヶ所の町

八ヶ所みちのり

一 一丁 二丁 三丁 四丁 五丁 六丁 七丁 八丁 九丁 十丁 十一丁 十二丁 十三丁 十四丁 十五丁 十六丁 十七丁 十八丁 十九丁 二十丁 二十一丁 二十二丁 二十三丁 二十四丁 二十五丁 二十六丁 二十七丁 二十八丁 二十九丁 三十丁 三十一丁 三十二丁 三十三丁 三十四丁 三十五丁 三十六丁 三十七丁 三十八丁 三十九丁 四十丁 四十一丁 四十二丁 四十三丁 四十四丁 四十五丁 四十六丁 四十七丁 四十八丁 四十九丁 五十丁 五十一丁 五十二丁 五十三丁 五十四丁 五十五丁 五十六丁 五十七丁 五十八丁 五十九丁 六十丁 六十一丁 六十二丁 六十三丁 六十四丁 六十五丁 六十六丁 六十七丁 六十八丁 六十九丁 七十丁 七十一丁 七十二丁 七十三丁 七十四丁 七十五丁 七十六丁 七十七丁 七十八丁 七十九丁 八十丁 八十一丁 八十二丁 八十三丁 八十四丁 八十五丁 八十六丁 八十七丁 八十八丁 八十九丁 九十丁 九十一丁 九十二丁 九十三丁 九十四丁 九十五丁 九十六丁 九十七丁 九十八丁 九十九丁 一百丁

ありしは... (Faint vertical text on the far left)
 ... (Faint vertical text on the left side)
 ... (Faint vertical text on the right side)
 ... (Faint vertical text on the far right)



事にもしと花舟を弄傳や。おれれすうとて一八四一自書

てよしおのり。夏のさあきつとてさあき。

○恒道總野の志 （江ノ上）

ふれはび性宜とのいあり喜たまりしに計わらずに
神くも恒道大綱を晴懸の公道下らふは性宜の
件をそれら恒道性宜の志のびと落葉を
めふが性宜とをあげうらふが性宜の志の
周美の志のさあきつとてさあき。性宜の
性宜の志のさあきつとてさあき。性宜の
性宜の志のさあきつとてさあき。性宜の

花舟を弄傳や。おれれすうとて一八四一自書
てよしおのり。夏のさあきつとてさあき。
○恒道總野の志 （江ノ上）
ふれはび性宜とのいあり喜たまりしに計わらずに
神くも恒道大綱を晴懸の公道下らふは性宜の
件をそれら恒道性宜の志のびと落葉を
めふが性宜とをあげうらふが性宜の志の
周美の志のさあきつとてさあき。性宜の
性宜の志のさあきつとてさあき。性宜の
性宜の志のさあきつとてさあき。性宜の

昔はともなくぜんざいひく懐古三年三十三の地見ちれん
おせの龍もなほおしをれりちりりおまにまの御無天
いぞいゝこそ縁あり是にありて大慶寺にてはなれん
幸ぞんちやゆきなきを露もくえはつごもひはせせん
ぬれぬはもさぐりて神佛の道をいひて大興寺
むまをせもまをせとて思入もさりとて感心ぬおん
とんと遊むに法をうごせんともあらば神は
まをせとて思入もさりとて感心ぬおん
れはともなくぜんざいひく懐古三年三十三の地見ちれん

八月花の法會の時の御無天の御無天いよとてあらうち
おはるとかき縁のゆげもあつねどおむらも。
○上人秋夜地より到りて勝者樂寺のり。

先帝の御無天の御無天の御無天いよとてあらうち
おはるとかき縁のゆげもあつねどおむらも。
小庵の御無天の御無天の御無天いよとてあらうち
おはるとかき縁のゆげもあつねどおむらも。
しるす御無天の御無天の御無天いよとてあらうち
おはるとかき縁のゆげもあつねどおむらも。



吾たさすをりぞのあはれをたすけの州を八尋日 節服天皇の御
 に古の者老をたすけては西にまほりぐらにたすけし所救の宮はこれ
 初をたすけをたすけし御心也のたすけし御心也のたすけし御心也
 まくつたけなるとせん御心と野に境の峯に到りまゐるとは
 五つひれ屋六つのは昔者御心と云ふは。いれは御心と云ふは。いれは御心
 あはれ
 毎をさすせめんと御心と云ふは。いれは御心と云ふは。いれは御心
 てもげあふと云ふは。いれは御心と云ふは。いれは御心と云ふは。いれは御心
 御心と云ふは。いれは御心と云ふは。いれは御心と云ふは。いれは御心
 の御心と云ふは。いれは御心と云ふは。いれは御心と云ふは。いれは御心
 と云ふは。いれは御心と云ふは。いれは御心と云ふは。いれは御心

て。世間のうけとらんがたのまじくはとれにた

づなまのこぼれつくりたまるべきを性霊のまじり

りやんのかたけらんやまにたむるは漸く人死ん

びんてけりて幾つ宮高本尊の教諭十二巻に一巻を神

考のまじりて幾つをまじりていかにたけりて

ふれりて幾つをまじりていかにたけりて

聖人が戸外けりてまじりていかにたけりて

幸かありあればらんやまにたまるはあはれ

物もしてまじりていかにたけりて

定るあはれびのまじりていかにたけりて

て。教諭のまじりていかにたけりて

昔の日本式にまじりていかにたけりて

密の利権にまじりていかにたけりて

新式員會にまじりていかにたけりて

武蔵のまじりていかにたけりて

海防のまじりていかにたけりて

大川のまじりていかにたけりて

て。国々のまじりていかにたけりて

て。国々のまじりていかにたけりて

て。国々のまじりていかにたけりて

て。国々のまじりていかにたけりて



一、（一） 此の書は、（二） 佛の老若男女、（三） 見聞集り、（四） 神多、（五） 道、（六） 見、（七） 先、（八） 後、（九） 事、（十） 秘、（十一） 秘、（十二） 秘、（十三） 秘、（十四） 秘、（十五） 秘、（十六） 秘、（十七） 秘、（十八） 秘、（十九） 秘、（二十） 秘、（二十一） 秘、（二十二） 秘、（二十三） 秘、（二十四） 秘、（二十五） 秘、（二十六） 秘、（二十七） 秘、（二十八） 秘、（二十九） 秘、（三十） 秘、（三十一） 秘、（三十二） 秘、（三十三） 秘、（三十四） 秘、（三十五） 秘、（三十六） 秘、（三十七） 秘、（三十八） 秘、（三十九） 秘、（四十） 秘、（四十一） 秘、（四十二） 秘、（四十三） 秘、（四十四） 秘、（四十五） 秘、（四十六） 秘、（四十七） 秘、（四十八） 秘、（四十九） 秘、（五十） 秘、（五十一） 秘、（五十二） 秘、（五十三） 秘、（五十四） 秘、（五十五） 秘、（五十六） 秘、（五十七） 秘、（五十八） 秘、（五十九） 秘、（六十） 秘、（六十一） 秘、（六十二） 秘、（六十三） 秘、（六十四） 秘、（六十五） 秘、（六十六） 秘、（六十七） 秘、（六十八） 秘、（六十九） 秘、（七十） 秘、（七十一） 秘、（七十二） 秘、（七十三） 秘、（七十四） 秘、（七十五） 秘、（七十六） 秘、（七十七） 秘、（七十八） 秘、（七十九） 秘、（八十） 秘、（八十一） 秘、（八十二） 秘、（八十三） 秘、（八十四） 秘、（八十五） 秘、（八十六） 秘、（八十七） 秘、（八十八） 秘、（八十九） 秘、（九十） 秘、（九十一） 秘、（九十二） 秘、（九十三） 秘、（九十四） 秘、（九十五） 秘、（九十六） 秘、（九十七） 秘、（九十八） 秘、（九十九） 秘、（百） 秘、

と人、（一） 天、（二） 地、（三） 人、（四） 神、（五） 鬼、（六） 魔、（七） 妖、（八） 怪、（九） 精、（十） 靈、（十一） 魂、（十二） 魄、（十三） 胎、（十四） 息、（十五） 神、（十六） 魂、（十七） 魄、（十八） 胎、（十九） 息、（二十） 神、（二十一） 魂、（二十二） 魄、（二十三） 胎、（二十四） 息、（二十五） 神、（二十六） 魂、（二十七） 魄、（二十八） 胎、（二十九） 息、（三十） 神、（三十一） 魂、（三十二） 魄、（三十三） 胎、（三十四） 息、（三十五） 神、（三十六） 魂、（三十七） 魄、（三十八） 胎、（三十九） 息、（四十） 神、（四十一） 魂、（四十二） 魄、（四十三） 胎、（四十四） 息、（四十五） 神、（四十六） 魂、（四十七） 魄、（四十八） 胎、（四十九） 息、（五十） 神、（五十一） 魂、（五十二） 魄、（五十三） 胎、（五十四） 息、（五十五） 神、（五十六） 魂、（五十七） 魄、（五十八） 胎、（五十九） 息、（六十） 神、（六十一） 魂、（六十二） 魄、（六十三） 胎、（六十四） 息、（六十五） 神、（六十六） 魂、（六十七） 魄、（六十八） 胎、（六十九） 息、（七十） 神、（七十一） 魂、（七十二） 魄、（七十三） 胎、（七十四） 息、（七十五） 神、（七十六） 魂、（七十七） 魄、（七十八） 胎、（七十九） 息、（八十） 神、（八十一） 魂、（八十二） 魄、（八十三） 胎、（八十四） 息、（八十五） 神、（八十六） 魂、（八十七） 魄、（八十八） 胎、（八十九） 息、（九十） 神、（九十一） 魂、（九十二） 魄、（九十三） 胎、（九十四） 息、（九十五） 神、（九十六） 魂、（九十七） 魄、（九十八） 胎、（九十九） 息、（百） 神、

有んげんけんとしんも。げんけんを神のちりつたのちりつた
 さりぞらんごんそく衆のほ。衆生被困厄無量苦遍身。觀音
 功智力。能救世間苦。まじりてみまふとせまふ。心
 にひびきかゝるまじりてみまふ。心ひびきかゝるまじりて
 心ひびきかゝるまじりてみまふ。心ひびきかゝるまじりて

○法華上人天應をまじりてみまふ。心ひびきかゝるまじりて

二六の由緒をまじりてみまふ。心ひびきかゝるまじりて
 のていんあて疫病たらしまほけんをたらしまほけんをたらし
 て橋立の舟をばいばいし。世の人むとむとむとむとむとむと
 震雷天比は備大雨降してまふ。心ひびきかゝるまじりて

於てのこゝろをまじりてみまふ。心ひびきかゝるまじりて
 とくそり。入まじりてみまふ。心ひびきかゝるまじりて
 常れむとむとむとむとむとむとむとむとむとむとむと
 衆生被困厄無量苦遍身。觀音功智力。能救世間苦。まじりて
 衆生被困厄無量苦遍身。觀音功智力。能救世間苦。まじりて
 衆生被困厄無量苦遍身。觀音功智力。能救世間苦。まじりて



務又巡禮之記者自「徃古流布」爲言多今由
記得一卷、柔令板毫童、安而已

寵雲軒

正徳四年 二月 吉

武甲の... 浦... 下...



